※仁王門から約200m下がると「銅の鳥居」があります

〒639-3115　奈良県吉野郡吉野町吉野山
ホームページ http://www.kinpusen.or.jp　Tel.0746-32-8371 Fax.0746-32-4563

自然を愛し、文化財を大切にしましょう。

総本山 金峯山寺

WORLD HERITAGE

神仏霊場会　奈良二十六番札所
役行者靈蹟札所会札所

KINPUSENJI
金峯山寺
吉野・大峯

修験道の聖地

Holy Place of Shugendo

日本の心が、
そのままここに、
生きている。

金峯山と金峯山寺

金峯山（きんぷせん）とは、奈良県の吉野山から山上ヶ岳（大峯山）に至る一帯を指し、古く飛鳥時代から聖地として知られていました。白鳳年間（7世紀後半）、修験道を始めた役行者（えんのぎょうじゃ）は、この金峯山で修行され、山上ヶ岳において、人々を迷いや苦しみから救い、悟りの世界に導くために金剛蔵王権現を祈り出されます。そして、そのお姿を山桜の木に彫刻し、山上ヶ岳と吉野山にお堂を建ててお祀りされました。これが山上山下の蔵王堂の起こりであり、金峯山寺の始まりです。以来今日まで、金峯山は、修験道の中心的な道場として、多くの修行者、宗教者が宗派を超えて入山修行しています。まさに、自然を敬い、神様も、仏様も大切にする日本の心の原点が残っており、その精神文化は、今もしっかりと生き続けています。また、役行者が蔵王権現のお姿を山桜の木に彫刻したことから、吉野山では山桜がご神木として保護、献木され、日本一の桜の名所となりました。

現在の金峯山寺は、金峯山修験本宗の総本山であり、多くの僧侶、修験者が日々、厳しい修行を続けています。吉野山蔵王堂から山上ヶ岳の山上蔵王堂（現大峯山寺）までの間、毎日休むことなく歩き、百日にわたって礼拝する「金峯山百日回峯行」、さらには、山上ヶ岳の開山期間（5月3日～9月22日）を8年、一千日を懸ける大行「金峯山千日回峯行」もこれまでに2名が成満しており、この金峯山寺で、役行者の教えを正しく受け継いでいます。金峯山寺を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は、その「文化的景観」の価値が認められ、2004年に、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

修験本宗の総本山

仁王門(国宝)▶
重層入母屋造り、棟の高さ20.3mの日本屈指の山門です。桧材の寄木造り、高さ5.1mの仁王像が安置されています。

蔵王堂(国宝)▼
金峯山寺の本堂。本尊蔵王権現三体のほか、多くの尊像を安置しています。重層入母屋造り、桧皮葺き、高さ34m、四方36mの建物は、安土桃山時代に再建された大伽藍です。

四本桜▼
元弘3年2月3日(1333年)、南朝の大塔宮護良親王が北条勢に攻められ、吉野落城を覚悟し最後の酒宴を催された場所を示しています。

花供懺法会(4月11・12日)
ご本尊蔵王権現に対し、ご神木である山桜の満開を報告し、お供えする法会。俗に花供会式と呼ばれる行事は、奴行列を先頭に鬼衆や稚児、山伏、僧侶、大名駕篭と続く十万石の格式と伝えられる行列が吉野山を練り歩きます。

蓮華会・蛙飛び行事(7月7日)
開祖役行者尊が産湯を使われたと伝えられる、大和高田市奥田・弁天池の蓮の花を採取し、蔵王権現並びに一山諸尊にお供えする法会です。翌8日には山上本堂の蔵王権現に蓮を供える蓮華奉献入峯修行も行われます。また、大きな蛙が修験大衆の法力により、人間に戻る奇祭・蛙飛び行事も行われます。(奈良県無形民俗文化財)

その他の行事
＊本尊奉謝祭(毎月7日)
＊本地堂供養会(毎月第
＊脳天大神例祭(毎月19
＊佛舎利宝殿彼岸会(春・
＊修正会(正月1〜3日)
＊観音堂大祭(4月18日
＊高祖会・大護摩供(6月

銅の鳥居（重要文化財）

発心門とも呼ばれ、ここで修行の道に入ることを決心します。俗世間から浄土への入り口とされています。

脳天大神龍王院

昭和28年、五條覚澄初代管長（脳天菩薩僧）が蔵王権現の霊示を受けてこの地に建立。滝行場、お百度道場が整備されています。

宝泉坊

脳天大神龍王院の少し下流に位置し、水子地蔵尊を本尊としています。

入峯修行

修験道は古くから日本に伝わる山岳信仰に神道や仏教、道教、陰陽道などが結びついて形づくられた日本固有の民俗宗教です。そして、修験の名が示すように実修実験を重んじ、修行を実践することで験（しるし）を体得します。山に伏し、山に学び、大自然の霊気の中で自己を見つめ、人間完成の道を求めるのです。現在も多くの人々が、神仏の住む曼荼羅であり、道場である山岳へ登って修行する入峯修行を行っています。

採灯大護摩供

修験道で修法する採灯大護摩は、罪や穢れを焼き清める聖火です。もともと火は、古代から日本人の霊魂のシンボルであり、その聖なる火によって私たちの罪や穢れを焼却し、再生への道を歩ませるのです。併せてさまざまな願いの成就を祈ります。金峯山寺では、一般の祈願者のための護摩供の祈祷も受け付けています。

日曜日）
日）
秋の彼岸）

）
日）

＊高祖界・千衣大法会（6月7日）
＊半夏生・大般若転読会（7月2日）
＊愛染堂大祭（11月27日）
＊佛名会（12月14日15日16日）

◇回峯行者と行く「大峯体験修行」
（5月～10月／月に1度開催）
◇吉野健康断食道場(春と秋に開催)
◇千人結縁潅頂
（4年乃至5年に1度開催）
信徒、一般向けの法会。本尊と深く御縁を結ぶ作法を行う。

金峯山修

開祖　役行者（えんのぎょうじゃ）

舒明6年（634年）元旦のお生まれ。その名を役小角（えんのおずぬ）といいます。全国各地の山々で修行され霊山を開き、修験道の基礎を築かれました。後に1100年忌の際、光格天皇から日本の歴史上唯一の尊号「神変大菩薩」を賜わりました。

金剛蔵王権現（こんごうざおうごんげん）

役行者が祈り出された当山の本尊。釈迦如来、千手観音菩薩、弥勒菩薩が、過去・現在・未来の三世にわたって私たちを救済するため、悪魔を降伏させるこの忿怒の相のお姿で出現されました。権現とは仮のお姿で現れることを意味します。

南朝妙法殿

後醍醐天皇の行宮となった実城寺跡。南朝四天皇並びに忠臣の霊をお祀りしています。本尊釈迦如来像は重要文化財に指定。

佛舎利宝殿

昭和42年、インドのガンジー首相よりお釈迦様の御真骨を拝戴し、ここに奉安しています。この佛舎利宝殿では、皆様のご先祖回向も行っています。

節分・鬼火の祭典

2月の節分の日に、星供秘法を修して、その年の天下泰平、除災招福などを祈祷します。また、開祖役行者の説話に由来して鬼の調伏式を行います。これは、全国から追い出された鬼を「福は内、鬼も内」と蔵王堂に招き入れ、修験者の法力で、改心させ仏道に帰依させる儀式です。